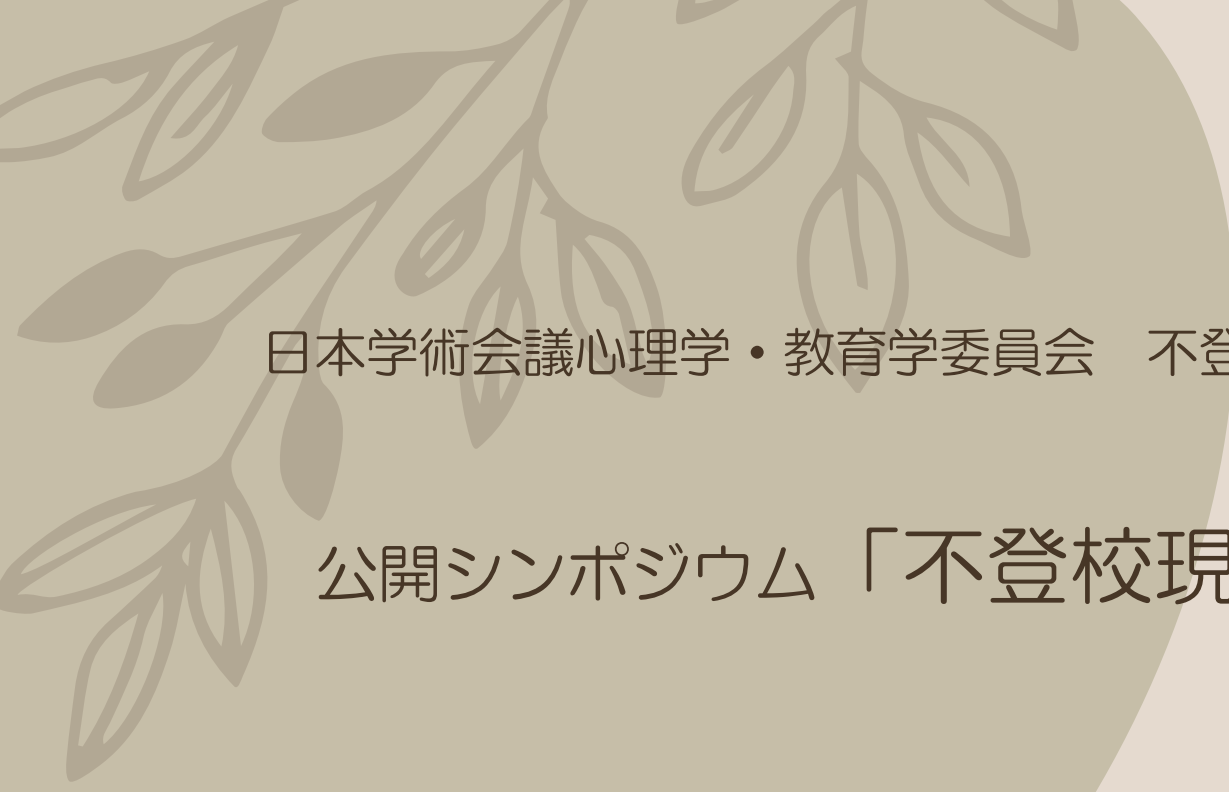


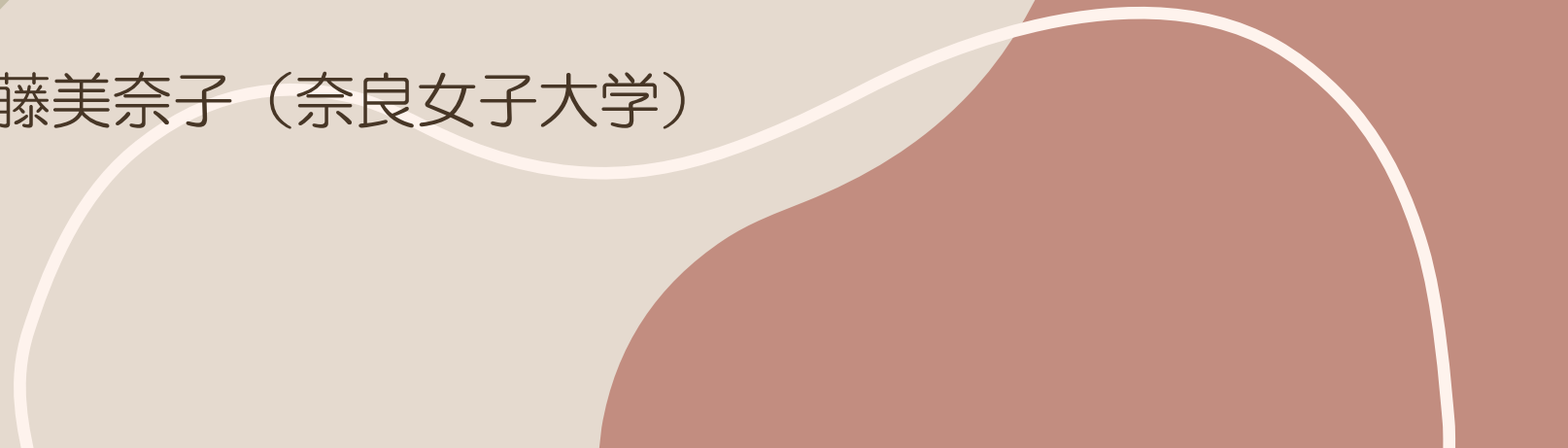


日本学術会議心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会 2025・3・16

公開シンポジウム「不登校現象に関する研究の到達点」

臨床心理学における研究動向

伊藤美奈子（奈良女子大学）



A large, dark gray circular shape on the left side of the slide, containing a stylized leaf graphic in a lighter gray tone. The leaf has several elongated, pointed leaves branching out from a central stem.

今日の流れ

不登校の変遷

不登校の臨床心理研究

今後に向けて

不登校の変遷

1950年代 「学校恐怖症」

数の増加

1980年頃 「登校拒否」

質の多様化

2000年頃 「不登校」

個人病理、母子関係、神経症的症状

母子分離不安

“さなぎの時期”

“思春期内閉”（山中，1978）

学校要因説

登校刺激はダメ

社会要因説

“私事化”（森田，1991）

ソーシャルボンドの大切さ

多様化・複雑化

不登校の変遷

1950年代 「学校恐怖症」



1980年頃 「登校拒否」



2000年頃 「不登校」

“治療”から“教育的支援”へ



1990 適応指導教室の設置

1992 どの子にも起こりうる/「待つ」ことが大切

1995 スクールカウンセラーの配置

2003 「ただ待つのみ」から「適切にかかわる」へ

スクールソーシャルワーカーの投入

2016 教育機会確保法

2020 コロナ禍によりオンライン化進む

2023 文科省「COCOLOプラン」

こども家庭庁による地域で支える視点も

現 在

「不登校」をめぐる臨床心理研究のあれこれ

【不登校の“理解”に関する研究】

◇類型論的分類（理解とアセスメント）

- 原因論：学校要因・家庭要因・個人的要因etc.
- タイプ分類：葛藤型・遊び型・明るい・積極的タイプetc.
- 段階分析：行き渋り期・葛藤混乱期・安定期・復帰期
- 発達的分析：児童期・思春期・青年期

◇家族関係からの分析

母子分離不安、きょうだい関係、虐待・ネグレクトetc.

「不登校」をめぐる臨床心理研究のあれこれ

【不登校の“支援”に関する研究】

◇支援方法に関する研究

カウンセリング、認知行動療法、アートセラピー
教員へのコンサルテーション、保護者支援etc.

◇学校心理学的視点

校内支援体制（多職種連携）やささまざまな居場所作り
ピアサポート、グループエンカウンター等の実践と実証

◆（医療）児童精神科医による報告（心理士として参画） 治療経過、チーム医療、病理や障害としての治療

「不登校」をめぐる臨床心理研究のあれこれ

【不登校の“成長や変化”に関する研究】

◇個別事例の検討（臨床心理の中核）
“自分探し/ルーツ探し/自己実現”

◇予後研究

国の中3不登校の追跡調査/適応指導教室卒業後の追跡etc.

今後に向けて

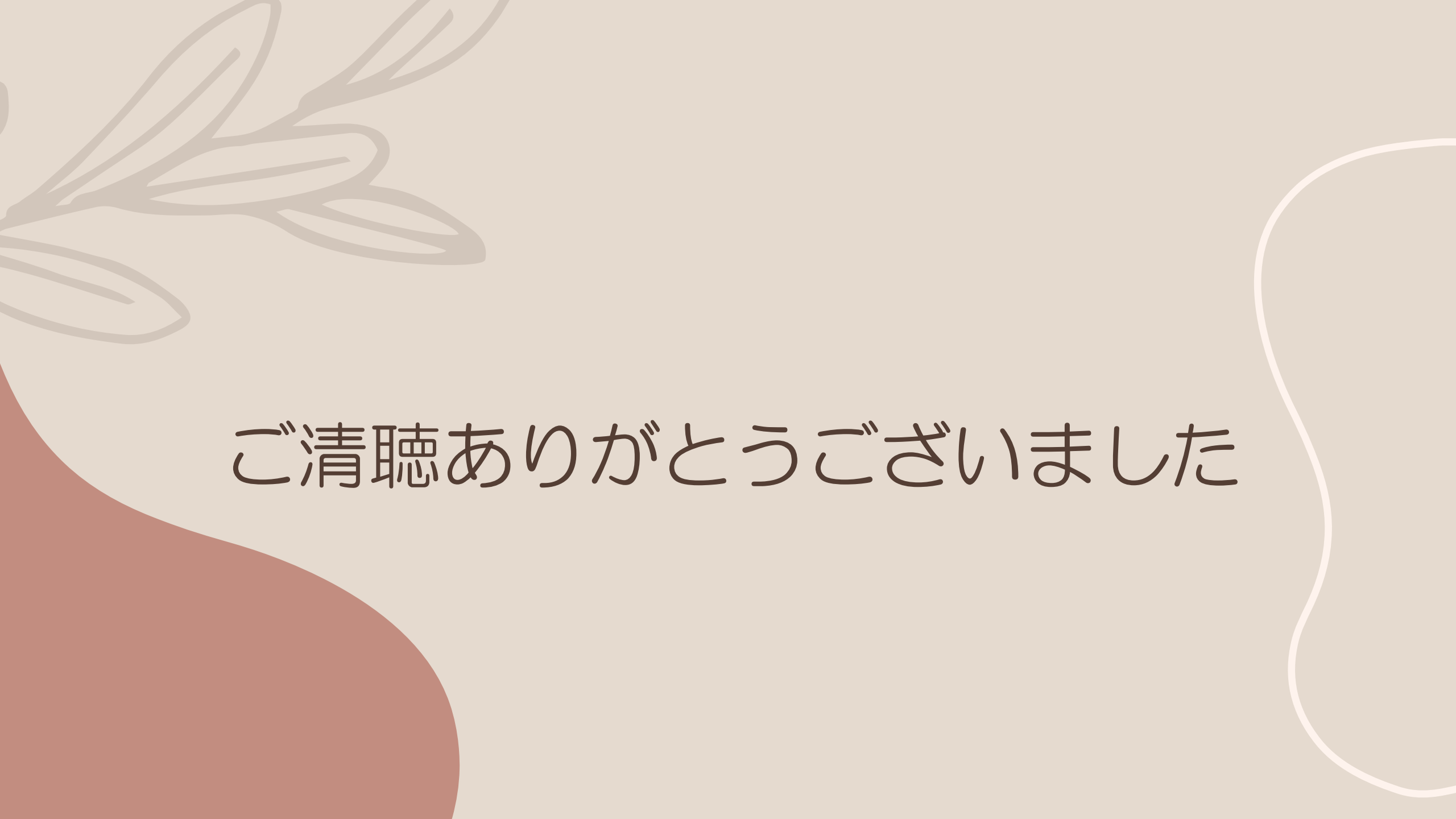
不登校研究の難しさ

- ◇実践あつての実証、実証あつての実践
- ◇個別性が大きい
- ◇背景要因（切り口）が多様
- ◇“大きな変わり目”にある（現在進行形で変わりつつある）



“心理” + “医療” + “教育” + “福祉” + “司法”

「個人」だけに注目するのではなく、「社会」や
「時代」と交差しながら、かつ動き（変化や成長）の
中でとらえることが肝要



ご清聴ありがとうございました